

会員研究

藤原鎌足と本墓

石原 裕之

6世紀に入り、蘇我稲目が権力を増し、子の馬子は、天皇家外戚という体制になりました。

蘇我氏出身の推古女帝となり、同様に聖徳太子を摂政にして政治をする全盛を完成させました。

さらにその子蝦夷は皇極女帝の時、大臣となり、そのまた子が入鹿が国政に参与し、絶大な権力を確立故、天皇家も他の豪族達も蘇我氏代々の権力には、目を見張る時勢であったに違いありません。皇極天皇の弟、のちの孝徳天皇は足の病で悩んでいた時、中臣鎌足が出現し身を寄せていたとされます。鎌足はこの皇極天皇の子、中大兄皇子と法興寺（飛鳥）地方の中心寺院での打毬会が催される中、毬をけるうちに意気投合していったとされます。

この運命的出会いによってこの

後、中大兄皇子と鎌足は、常に行動を共にする仲となったとされます。

鳥時代の地下墳墓です。昭和9年（1934）、京都帝国大学の阿武山地震観測所構内で地震計用トンネルの掘削中に発見されました。漆喰で固定された墓は乾漆棺で収められており、ミイラとなっていた遺骨は、頭部が金糸でおおわれて、玉枕をしていた状態にありました。このような埋葬状態であるところから、古代の天皇か、それに準ずる高位の方のご遺体と推測され、これ以上の科学的調査は非礼にあたるとの判断がなされ、全て埋め戻されたのであります。しかし、実際は京都帝国大学による学術的調査は行われていて、梅原末治氏らによる「大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告第七・撰津阿武山古墳調査報告」として昭和11年（1936）に刊行されています。その後、昭和57年（1982）に京都大学から発掘直後に密かに撮影された数十枚のレントゲン写真原板を含む阿武山古墳被葬者の調査写真や頭髪が発見されました。奈良国立文化財研究所と東海大学医学部整形学科の分析調査の結果、埋葬者は背骨と肋骨の骨

折が原因で死亡したことすなわち、「高所からの転落により、背骨及び肋骨の骨折により、ほとんど全身不随の状態で、しばらく生存していたために、肋骨に癒着が認められる」とのことでありました。

645年（皇極4年）6月12日、運命の大化の改新（乙巳の変）が決行されました。日本書紀から、この時、中大兄皇子が皇極天皇の前で床に伏して「蘇我入鹿は、天皇家を滅ぼし、天皇家皇位を自分の私心に治めようとしております。」と申し上げ、入鹿は暗殺されました。この事件が2人を古代史上最も重大な英雄的史実スターとさせ、現在に至る約千四百年の間、学校の教科書等にもある事実として、日本の大きな歴史事件となっている訳です。さて次にこの鎌足の本墓とされるものが大阪府高槻市阿武山古墳として出現しています。淀川右岸の三島平野を間近に見下ろす中腹、標高218mの「美人山」につくられた飛

「日本書紀」によると鎌足は天智8年（669）5月5日に天智天皇が山科野の鹿の若角を獲る狩りに鎌足も同行したと記されていて、そのとき落馬して骨折した、という憶測があります。または、亡くなる前に邸宅に落雷があつたことから、それに関連する事故であるとも考えられますが、骨折だけをもって鎌足説を唱えることはできません。また、「天皇が藤原内大臣宅に親しく病を見舞われた」とあり、その翌日の死亡とされていますが死因は明確とはなっておりません。



2013年(平成25年)12

月、関西学院大学の調査により、阿武山古墳で発見された棺に入っていた冠帽が、当時の最高級の技術で作られ、さらに金糸を織り込んだものである事が判明しました。日本書紀によれば、鎌足は死の前日の天智8年(669)10月15日に天皇から最上の冠位「大織冠」と大臣の位を贈られたとされており、この冠帽がそれではないかと考えられております。後に鎌足は「大織冠(たいしよくかん、たいしきかん)」と尊称されました。大織冠は、冠位の最上位で、史上藤原鎌足だけが授かったとされています。

また金糸は冠の刺繍糸と推定されました。これらの分析結果と一致すること、冠はおそらく当時の最高冠位である織冠で、被葬者は藤原鎌足と推量されるのであります。しかし、鎌足と同時期の蘇我倉山石川麻呂や阿倍倉梯麻呂(内麻呂)などの可能性もあるとする説もあります。前述の梅原末治氏は、被葬者が一人であるやの問題は蓋し永久の疑問たるを免れないで

あらう」と結んでいます。

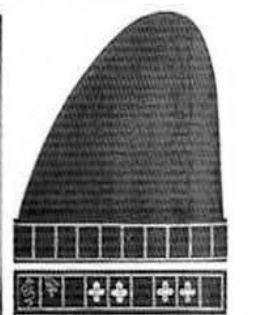
藤原氏に関する神社、寺院等は、以前まで奈良県桜井市に鎮座する鎌足長男、僧侶・定恵が建立した談山神社に鎌足の遺体を運んで社中に埋葬したとされていますが、近年、大阪府茨木市にある大職官神社が詣り墓となつてまいりました。阿武山古墳の存在を御存じない方が多くいらつしやる現状に私は誠に残念であると痛感し、慚愧に堪えないのでありますが、昨年(2019)5月にこの阿武山古墳を訪問した際、京都大学地震研究所の職員の方も「友人・知人の方々にもこの古墳のことをよく伝えていただきたい」と言付けをいただきました。この阿武山古墳は、昭和58年8月、国の史跡に指定されており、そして今城塚古代歴史館が直接管理をしていて、平成24年(2012)に特別展を催した時、会期中に5341人が見学された様ですが、その後の公開は、平成25年12月22日に高槻市制施行70周年記念事業として、歴史シンポジウム「中臣(藤

原)鎌足と阿武山古墳」が開催され、考古学、古代史、美術工芸等の専門分野の先生方が発表されたそうです。

最後に藤原氏は、千年以上尋常ならざる歴史界の人物であり、そのほとんどが、奈良県桜井市の談山神社、春日大社、一部枚岡(ひらおか)神社ですが、武甕槌(たけみかづち)神、経津主(ふつぬし)神、天児屋(ひめかみ)の4柱を祭られています。これらの神、武甕槌神と経津主神は、東国(現、茨城県の鹿島神宮と千葉県の香取神宮の神)、天児屋命と比売神は、鎌足の祖神であります。



金糸の出土状況



▲大織冠の復元品
(奈良文化財研究所)



▲阿武山古墳出土の玉枕の復元品
(奈良文化財研究所)

▲主な参考文献▼

・「藤原氏の正体」 関裕二

(新潮文庫)

・「藤原鎌足と阿武山古墳」

高槻市教育委員会・編集

(吉川弘文館)

・ウエキペディア

▲筆者紹介▼

横浜市中区在住で、令和2年1月横歴に入会しました。藤原鎌足の子孫の藤原魚名系波多野家子孫です。元高校、短大の社会科教員であります。